

(仮称) 道の駅「蒲原」基本計画 (案) 【概要版】

1. 蒲原地区における道の駅整備に向けた検討

【蒲原地区の現状とトライアルパーク蒲原】

蒲原地区では、来訪者の減少や人口減少・少子高齢化により地域の活力が低下する中、宿場町のような溜りの空間を提供し、周遊のきっかけをつくり出すため、トライアル・サウンディング手法を活用し、2022年に旧県立庵原高校グラウンド跡地で「トライアルパーク蒲原」を暫定的に整備しました。

施設は、富士山の眺望がよい立地から、平日は周辺住民の公園利用として、週末は各種イベントの開催により、市内外から多くの方が来場し、また、地元の行事にも活用されるなど、地域の賑わいの創出に寄与しています。



週末のイベント状況

【国道1号バイパス富士川周辺における現状】

左岸の道の駅「富士」では、交通量に見合う駐車台数が確保出来ていないこと、更には、台風等の自然災害時に、駿河湾と並行する国道1号が越波などによって通行止めが発生するなど、休憩・防災機能に課題が生じています。

そのため、道の駅が出来ることで、駐車場の確保や道路利用者への一時退避や待機場所のほか、有事の際の防災拠点としての活用が期待されてます。



富士川河川敷等への停車状況



高潮被害による通行止め状況

2. 地域の特徴を活かした新たな拠点づくり

道の駅化に向けては、これまで地域で積み重ねてきた様々な取組を基盤とし、地域の歴史・文化をはじめとする特色ある資源を、点として捉えるのではなく相互に有機的につなげる取組を進めていきます。

蒲原地区は、旧東海道の宿場町である蒲原宿としての歴史資源や古い街並みが数多く残るエリアであり、日本風景街道「駿河二峠六宿風景街道」の起点として位置付けられています。

また、蒲原地区を通過する太平洋岸自転車道は、2021年にナショナルサイクルルートに指定されて以降、インバウンド客の利用も増加しており、同ルートの近傍に位置するトライアルパーク蒲原は、休憩機能を備えたサイクルステーションとして多くのサイクリストに利用されています。

こうした背景から、日本風景街道と太平洋岸自転車道が重なる立地特性を最大限に活かし、周辺の歴史・文化・自然へと来訪者を誘導する「ゲートウェイ」の強化を図ります。

さらに、近傍の道の駅「富士」や「富士川楽座」との連携により、点在する道の駅を一体的に機能させることでネットワークの形成と相乗効果の創出を図るとともに、サイクリストが安心して走行・周遊できる環境を整えることで、近隣市への波及効果も期待されます。



蒲原の宿場町を自転車で行くサイクリングガイドツアー (提供: (株)スルガスマイル)



旧東海道を走行するサイクリスト



トライアルパーク蒲原発着のサイクリングイベント

3. (仮称) 道の駅「蒲原」整備コンセプト

イキ⁺ 地域の宝を育み、人が行き交い、歴史が息づく、憩いの場

(仮称) 道の駅「蒲原」は、地区の歴史・文化等の地域資源を活用し、静岡市や蒲原の“魅力”や“らしさ”を発信し、全国から人々が訪れ・交わる「道の駅」を目指します。



4. 道の駅導入機能の方針と整備施設

(仮称) 道の駅「蒲原」では、静岡市道の駅基本構想の基本方針や地域課題を踏まえ、休憩機能、情報発信機能、地域振興機能に加え防災機能の4機能とします。

休憩	昼夜間のドライバー・同乗者等の道路利用者に対して、24時間無料で利用可能な駐車スペースや多機能・ユニバーサルなトイレ、ベビーコーナーを整備し、安全で快適な道路交通サービスを提供します。	情報発信	道路利用者や近隣住民、来訪者等に対して有益な道路情報の発信や、災害時における通行止め等の道路情報を提供できる機能を整備します。また、観光情報等の提供を行い、“ここですか”出来ない体験情報も発信します。
機能の方針	気軽に憩い、リフレッシュできる空間や場としての機能を導入する	機能の方針	道路利用者や近隣住民、来訪者等に対して有益な情報を発信する
整備施設	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが利用しやすい駐車場 多機能、ユニバーサルなトイレ ベビーコーナー 	整備施設	<ul style="list-style-type: none"> 道路・交通・災害情報提供施設 地域・観光情報発信機能

地域振興	“新たな魅力のある地域づくり”の実現に向けた、産業・観光振興等地域との相乗効果創出の核となる機能を導入します。	防災	災害時における、道路利用者等の一時退避所や待機場所として、災害に備えた防災機能を整備し、災害に対する強靱性を確保します。
機能の方針	地域資源・魅力を発信できる機能を導入する また、地域の魅力を活かした賑わいと活力を創出する機能や、地域住民の日常路利用可能な機能を導入	機能の方針	自然災害や異常気象に対する強靱性確保に寄与する機能を導入する
整備施設	<ul style="list-style-type: none"> “地場産品”を活用した魅力の発信(飲食、物品販売、体験施設等) 道の駅を起点とした、近隣地域へのアクセシビリティ・回遊性の向上に資する機能 地域活動の担い手育成や、住民の居場所づくりに寄与する“場”の確保 	整備施設	<ul style="list-style-type: none"> 災害発生時における、道路利用者等の退避・避難施設 防災倉庫・非常用給水設備・発電機や災害時の支援活動に必要なスペースの確保

5. 施設の概要

道の駅整備予定地は、富士川の洪水や高潮発生時に浸水が想定される位置にあります。施設配置の検討では、(仮称) 道の駅「蒲原」には災害時に防災拠点としての機能も求められていることから、浸水リスクへの対応として、地盤の高上げを行います。



整備規模や費用負担など具体的な整備内容については、今後の協議等を踏まえながら、実施設計等において精査していきます。

また、今後は市の負担が極力抑えられるよう、国の交付金や補助金等の活用を積極的に検討していきます。

※用地取得費・関連事業費は除く

導入機能	金額
道路休憩機能(駐車場・トイレ・ベビーコーナー)	約17億
情報発信機能(道路情報案内、地域・観光情報案内)	
地域振興機能(駐車場、トイレ、飲食・物販施設等)	約3億
その他施設(防災倉庫等、外構等)	
造成、設計等(諸経費、調査・設計費等)	約10億
合計	約30億